

四天王寺女短大 川澄 博子
○中西 弘子
辻林 啓子

1. 従来主に作業着として用いられて来たスラックスは、ここ2~3年の間に社交服にまで発達した。人為的につくられたものであったにせよ驚くべき変化である。そこで種々の作図法をとりあげ各々の作図の特徴及び試着結果をあわせ、機能性と美をもつ作図を究明したいという目的で本実験を行なった。

2. 短大で用いられている教科書や服装関係でとりあげられている本の中から11種類の作図を選出し個々の作図法の特徴を考察した。つぎに本学被服科学学生320名の身体測定を行ない体型の異なるもの9名を被験者としてえらび、この寸法を基にして上記11種の作図をし、仮縫い・試着における結果を比較検討してみた。

3. 作図法においては、巾・股上持ち出し寸法等の運動量にそれぞれの特徴がみられた。とくに運動量を腰囲から割り出す方法と、一定の寸法を規定している方法とがあり、この相違はスラックスの性能を方向づける大きな要因となっている。試着結果においては、同じ作図法を用いても体型によっては仮縫いでの補正は困難な場合が生じた。とくに特殊体型・肥満型の腹ぐせ、やせ型の運動量は考慮する必要があると思われる。